



# 徳成寺 寺にもかわら版 第189号 2022年9月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

「びっくりしたいというのが僕の願いなんです。」国来田独歩の

「牛肉と馬鈴薯」の一節です。現実主義と理想主義の是非をめぐって

青年たちが議論するこの物語で、作者が伝えたいメッセージの本質です。

この一文に続いて「宇宙の不思議を知りたいという願いではない、不思議なる  
宇宙を驚きたいという願いです！」そして「死の秘密を知りたいという願いではない、

死という事実に驚きたいという願いです」と。東京オリンピック・パラリンピックが

終ってちょうど1年。五輪組織委員の元理事と民間業者が贈賄容疑で逮捕されました。

ところが恥ずかしながら、私自身は何も驚いたりしませんでした。それどころか、

「さもありがたみ」と思ってしまうのです。この件に限らず、おかしな事があり過ぎ

なれっこになりびっくりしないのではないのでしょうか。驚きとは、ハッとして

目を覚ますこと。仏教の人間観の一番大事な部分です。日常に驚きを取り戻して参りましょう。

**発行責任者 -  
住職  
大山健児  
坊守  
大山ひとみ**



## 大山超世の耳を澄ませば



お世話になっています、副住職です。お盆参りでお世話になりました御門徒の皆様、ありがとうございました。今年は厳しい暑さについての話題で持ち切りでした。そんな夏にピッタリな食べ物がところてんです。色々な食べ方があるようですが、我が家では酢醤油のタレで食べます。強めの酸味で気分がさっぱりした後はモリモリご飯が食べられます。ピーク時に比べると気温はずいぶん落ち着きましたが、まだまだ暑い日が続きますので、よろしければ試してみてください。写真はアンパンマンに出てくる愉快的な仲間、ところてんまんです。彼が振る舞うところてんをジャムおじさんが物凄く美味しそうに食べるシーンを見て私は小学生の時にねだりましたが、当時は酢を使った料理が苦手だったので、一口食べた後、完食できませんでした。あれから20年。酸味が楽しめるようになり、大人になったなと思いました。